

静岡県立藤枝北高等学校 古代体験授業レポート

静岡県埋蔵文化財センター

平成30年10月9日

10月9日（火） 静岡県立藤枝北高等学校を訪問しました。
今年2度目の訪問です。総合的学習「社会科」を選択している3年生22名とともに、「土器分類」と「勾玉作り」の二つの体験に取り組みました。最初は硬かった表情も、はじめて手にする本物の土器に驚き、さらに分類する体験には興味津々。また、勾玉作りのやすりがけに没頭し夢中になって取り組む姿が見られました。
本物に触れたこの体験学習がこれからの学習に生かされるとともに地域を愛する心を育ててくれることを期待しています。



土器分類体験

縄文土器、弥生土器、須恵器(すえき)の3つの時代の土器の特徴は小中学校で学習済みのはずでしたが、実際に本物の土器片を直接手にとって分類すると難しい作業でした。見た目や肌触りなどそれぞれの時代の土器の特徴や違いを見つけて分類しました。



勾玉作り体験

藤枝市の代表的古墳である若王子古墳群や縄文時代から見られる、あの不思議な形の勾玉(曲玉)。その形状は、動物の牙を模しているとする説や母の胎内にいる初期の胎児の形を現しているのではなど諸説があります。そんな謂れや発掘の様子などの解説を聞いた後、いよいよ勾玉作りに取り組みました。出土した勾玉の多くは、翡翠や瑪瑙、水晶といった硬い石を加工して作られていますが、今回の体験では、やわらかくて加工しやすい滑石(蠟石)を、紙のやすりを使って形を整え、完成させることができました。



最初は戸惑いもありましたが、次第にのめりこみ、勾玉作りに没頭、紙やすりを使って、丁寧に磨き上げて成型着色と、世界に一つのオリジナル勾玉を完成させることができました。1時間30分程度の短い体験時間でしたが、完成までこぎつけ、自慢げに笑顔で首からさげる生徒も見受けられました。